

3年1組	金子	実
場所	パソコン室	
児童数	36名	

1 単元名 「ことわる勇気で安心ネット」

2 単元について

(1) 児童について

今年には学校の創立140周年ということもあり、子どもたちは学校の昔について興味を抱いた。実際に調べ活動に入ると、家にあるもの、家の人に聞くこと、図書室の本を探して調べるなどをして学習を進めてきた。しかし、学習が進むに従って、児童によって調査活動に限界が生じてきた。それは、①博物館等の見学を希望したり進めたりする場面で、その施設のホームページを見たい②古い道具について、図書よりさらに詳しく調べたい③遊びのやり方を、図書より詳しく調べたい、などである。子どもによっては家で家族に頼んで検索・印刷をして持って来る場面も見られる。しかし、ネットで同様に調べたいと希望する子にとっては活動の壁にあたり、探究の意欲の低下にもつながりかねない場面も見られた。そのような中で夏休みが過ぎ、検索キーワードを入力するのに必要なローマ字の学習をしたことからようやくPCの具体的活用について学ぶ時期が来たと言える。

(2) 材について

パソコン室は本学級の掃除の担当にもなっているので、掃除の度に「いつ使うの」「早く使いたい」「ネットでいろいろなことを調べられる」「うちにもあるから使い方を知っているよ」など、使用についての関心が高い。また、それらを使うためにローマ字の学習も熱心に取り組んできた。担任が授業でPCを積極的に使うことから「自分たちも使いたい」「使わせてほしい」「いつかは教えてくれる」という期待を持っている。また、本年度取り組んでいる昔のくらし調べのために、自分の手で調べたいという気持ちが高まっている。このような環境の整備と活用の必然の中から、ネットによる検索の活動を取り入れることとした。しかし、ネット検索には、様々なリスクも伴う。学校で学習すれば、当然家庭でも使うことになる。学校で教わったとなれば家庭での使用のハードルも下がることが考えられる。そこでネット検索についての光と影の学びを始めることで、これらの学習のよきパートナーとなるようにさせたい。

(3) 単元の意図

実は小学校3年生でのネット検索は、まだ早いのではないかと考えた。しかし、4年生になれば理科や社会科の学習において調べ活動での活用する必然性が高くなることや、ローマ字の学習が4年生から3年生に降りてきたことを考えると、ネット検索の技能が学習の基本技能の習得の一つであると考えられるし、単語入力のできる検索の活用は、調べ活動の充実につながると考える。今回本学級でも様々なことを調べるためには、ネットの正しい使い方やそこに潜む落とし穴について学ぶことが、インターネットのを学習のよりよいパートナーとして活用できることにつながると考える。

本単元名を「ことわる勇気で安心ネット」としたのは、画面上で「どうしますか?」というメッセージが表記されると、大抵の場合肯定的な反応をする。これから様々なソフトウェアを入れたり、ネット上で様々な契約をしたりする際に、「yes」の反応をしないと先に進むことができなくなる。そして気付くと・・・という場面もありうる。そこで、今コンピュータの学習を進めていく始めだからこそ、一番中心になる活動を単元名として掲げ、ここに向けての学習を展開していきたいという思いからである。

(4) 本学級における情報教育について

①子供たちの電子機器の使用の実態を調べてみると、以下の通りであった。

- i 自分の携帯を持っている・・・・・・・・・・61%
 - ↳ それはKIDS携帯?・・・・・・・・・・45%
- ii 家の人の携帯を使っている・・・・・・・・・・30%

- iii 許可をもらって使っている・・・・・・・・・・47%
- iv D Sを持っている・・・・・・・・・・72%
- v 通信で遊んだことがある・・・・・・・・・・80%
- vi プロフ入力をしたことがある・・・・・・・・・・60%
 - ⇒ 親は知っている・・・・・・・・・・69%
- vii ネットで会話をしたことがある（ゲームなどのチャットを含む）・・・・・・・・80%
- viii そこでいやなことを言われたことがある・・・・・・・・80%

② I C T 学習横浜スタンダードを基にした指導計画の作成

本校では1.2年生より必要に応じて教室の実物投影機、デジタルカメラ、パソコンの操作について学習をしてきている。携帯型のゲーム機の所有率や自宅での使用（スマートホンやタブレット型端末機を含む）経験から、機器に対する興味・関心の高さと知識を持っている。また、経験が少ない子に対しても使用に関してのアドバイスができる。しかし各過程の状況によりその経験値には差がある。そこで使用状況を見ながら、本学級では次のような指導計画を考えて取り組んでいる。

i 基本的な操作

- ・各部の名称の理解、電源のON/OFF、マウス操作、ソフトウェアの立ち上げと終了、などは既習事項として身についている。そこで本学級では、次の項目を挙げてみた。

キーボードによる入力、印刷作業、必要なデータの保存と開くこと

- ・情報機器については、テレビ、ハードディスクレコーダーの操作、C D ラジカセの操作、

ii 情報活用の実践力

- ・学校ホームページだけでなく、子ども用検索エンジンによる情報の収集、NHK for schoolからのリンク集の活用、その際の情報収集・判断力の育成(本時)

③ 今回の授業を展開するにあたって

現在、情報モラルの学習は、インターネットを利用した通信機器の発達により多岐にわたっている。例をあげるだけでも、①携帯モラル（メール）②有害サイトへのアクセス③ウイルス感染④フィッシング詐欺⑤プロフなどへの個人情報の書き込み⑥SNSによる不特定者との会話環境⑦情報の送信ミス・・・などである。特に携帯ゲームによるチャットによるメールのやりとりでのトラブルは近年始めている問題の一つである。それは会話がメールとしてでなくその場の感情的なメッセージのやりとりとなるため、単語での会話となりお互いの心を刺激しやすい。（①のいやなことを言われたことがあるでの会話はこれにあたる）実態調査からいってもこのメールのやりとりについて取り上げる予定でいた。しかし、実際にP Cを使つての授業を始めたところ、ローマ字から子供用の検索サイトを活用をさせたところ、数名の児童による手際のよい使用が見られた。その際に自分が行きたいサイトに以降としている子がいた。学校のP CはY Y ネットによるフィルタリングがあるので安心して使わせる事が出来るが、学校で使い方を教わったことから過程でも大人用の検索エンジンを使用した調べ活動を保護者の目が無いところでもやる可能性が無いとも言えない。そこで、検索において注意すべきことの一つである②有害サイトへのアクセス③ ウイルス感染④フィッシング詐欺を防ぐための学習を取り上げる事にした。

教材も当初はジャストスマイルに入っている情報モラルの教材を使用する予定でいたが、その後いろいろと調べたところ京都市教育委員が作成した教材のほうが完成度が高いと判断したことから、ジャストスマイルの教材と併用して活用するとした。

(5) 磯子区情報・視聴覚教育部研究テーマとのかかわり

《磯子区研究テーマ》

「児童の情報活用能力を高める指導のありかた」

- ①各教科・領域、総合的な学習の時間の中において、児童が様々な情報に触れる場面では、どのような指導が必要か。
- ⇒ 今回の学習では、総合的な学習の時間で、調べたいものや行きたい施設、行かれないけれども見てみたい施設を調べ、ものについて詳しくなったり、行ってみたい施設について調べ

たり、行くことはできなくてもある施設について調べたりすることができるようにしたい。そのためにはネット検索の技術の習得が必要となる。そこでネット検索ができるようになるためのステップを踏みたい。3年生としては、①日本語入力のしかた、②検索エンジンについての知識とアクセスの方法、③検索のコツ、④検索中の注意、⑤検索した情報の真偽の確認などが挙げられよう。

② 児童が学習の手段として、情報機器を適切かつ効果的に活用できるためには、どのような指導が必要か。

✧ ネット検索は、P Cの操作を目的としているのではなく、P Cを介して必要な情報を検索・閲覧・選択・収集・比較検討が必要となる。このため、キーワードを入力・検索して修了とはならない。また検索をして行く中で、不適切なページに出会うこともある。学校のP Cではなかなか出会えない場面ではあるが、家庭のものではその可能性が高い。子どもたちが実際に出会っても適切に対応できるだけのスキルを身につけていく必要がある。そこで今回はそのスキルの中の一つを授業として取り上げる事とした。

○活用する情報機器、教師用P C、児童用P C、ジャストスマイル（5）

使用する教材 「小学校情報モラル指導実践事例集」より擬似サイト体験教材
www.edu.city.kyoto.jp/school.webmoral/ 京都市教育委員会

3 単元目標

学校でのコンピュータの使い方からインターネットの活用とその注意点を知り、様々な学習場面において適切に活用できる知識と態度を身につける。

4 基本構想図（別紙参照）

5 身につける資質・能力・態度

学習方法に関すること	・学習活動を進めていく中で情報・視聴覚機器の特徴を生かして活用することができる。
自分自身に関すること	・学習に必要な情報の収集、活用において、適切な判断をしながら活用することができる。
他者や社会とのかわりに関すること	・知ることができた情報を取捨選択したり、その真偽を確かめたりすることで、必要な情報を適切に得ることができる。 ・友だちと情報を交換・共有して、常に適切な情報を得ることができるようにする

6－1 本単元にかかわる教科等の内容

教科等名	学 習 内 容	時間数
国 語	「ローマ字」 ・日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字でかくことができる。 「コンピュータのローマ字入力」 (ローマ字学習の関連教材として記載)	5

6－2 本学級の杉田の時間にかかわる教科等の内容

4の基本構想図の裏面に記載

7 単元計画（全6時間）

1 みんなで使う学校のコンピュータを使うときの約束を学んで守ろう

- 2 ネットやみんなで使うコンピュータを安全に使うためにあるパスワードについて知ろう
- 3 ウェブページのよさと心配なところについて考え、つきあい方を考えよう
- 4 問題のある情報に出会った時の対処法を知ろう（本時）
- 5 検索エンジンで調べよう
- 6 検索した情報は正しいかを確認しよう。

8 本時

(1) 本時目標

ネット上で安全な検索活動ができるように、問題のある情報に出会ったときの対処法を身につける。

(2) 本時展開

児童の活動	教師のかかわり・支援
1 ネット検索について知っていることを発表しあい、本時の学習課題を確認する。 ・言葉を入れるといろいろ調べられる。 ・ゲームがダウンロードできるものもあるよ。 ・でも、うちではやたらと見てはいけないといわれているよ。危ないこともあるんだって。	○それぞれの経験や知識をもとに、学習課題へと絞り込んでいく。
ネットで危ないことって、何だろう。みんなで調べていこう	
2 ウイルス体験サイトを体験して、感想を述べ合う。 ・こわかった。 ・びっくりした。 ・本当でなくてよかった。 ・ほかにこわいことなんてないよね。	○あくまでも体験であり、実際に起きているわけではないが、起こりうることであることに気付かせる。
3 他にもこわい例があることを知り、ワークシートに答えていく。 ・こんなこともあるの？ ・これって、どうなるの？	○ワークシートに添って行すが、知らなかったり意味が理解できない場合は通過させて、後で学ぶことを伝える。
4 一つずつ全体で発表しあいながら、どうなるかを話し合っていく。 ・こわいから、やりたくない。 ・でも、べんりなものだから使いたい。 ・気をつけることは何だろう。	○知っていることや、家族にいられていることなどからあげさせてまとめていく。
5 気をつけることについて分かったことをまとめていく ・簡単に「はい」「Y e s」をしないでよく読む。 ・かくれてやらない。勝手にやらない。 ・自分が予定していなかったものには答えない。	○これまでに分かったことをあげさせてまとめていく。
6 次時予告	

9 評価

ネット検索をする時の注意やいざという時の対応作、心構えについて理解できたか。